

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000082		
法人名	社会福祉法人 慶長会		
事業所名	グループホーム いずみ		
所在地	対馬市上対馬町泉1635		
自己評価作成日	令和7年10月3日	評価結果市町村受理日	令和8年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和7年11月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が生き生きとした生活が送れている。
-----------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は季節の移り変わりを感じることができる自然豊かな環境に立地している。職員は勤務シフト表からその日の自分の勤務内容を理解し、責任を持って入居者に寄り添う支援に取り組んでおり、記録物による情報の伝達にて全職員が同じ介護ができる仕組みを確立している。管理者が毎月家族へ送る便りは、入居者の日常の様子が分かりますと、喜ばれている。職員の手作りの食事、介護計画の基となるケアマネジャーの手書きのモニタリングシートや各種記録物からも丁寧なケアの姿勢が見て取れる。リビングには、歌や踊りを楽しむ姿や穏やかな表情があり、室内移動の際に片道は時間がかかっても自力で歩くことが本人の脚力維持やモチベーションアップに繋がっている。職員は常に入居者を中心に何事も最後には笑って終われますようにとの思いの下、理念である“目配り、気配り、心配り”に加え“手配り”を実践している事業所である。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲げ地域や家庭との連携を図り生きがいのある生活支援に努める。	事業所理念“目配り、気配り、心配り”は、誰が聞いても想像できる言葉であり、入居者が自由気ままに安全に暮らすための支援に必要なものと職員は理解している。管理者は理念に加え“手配り”の大切さを折に触れ伝えており、事業所全体で協力し合い、入居者が生き生きと暮らせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の高齢化重症化に伴い行事への参加は厳しい。運営推進会議で地域の方より在宅介護の大変さ、ホームの有難さを伺った。	管理者は地区の民生委員として地域高齢者の情報を把握しており、健康サロンやデイケア施設にて地域の相談を受ける等、地域福祉事業に参画している。職員は地域清掃に参加しており、入居者との散歩時に近隣住民と挨拶を交わす等、顔なじみである。病院受診時の待合室での知人との再会は入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護の大変さ等、日頃より地域で相談にのり経験等を一緒に生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	請求書に月内にあつたその方の様子、支援内容を明記し送付している。	年6回、規程メンバーで対面会議を開催している。会議には地域ボランティアの参加もある。行事、事故とヒヤリハット、自主避難訓練の報告の他、感染症対策委員会と身体拘束廃止委員会からの事例報告があり、参加者からの意見やアドバイスを得ている。議事録は毎回家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に関係機関スタッフと連絡を密にし運営会議で不明な点を問い、協力してもらっている。	介護保険に関することや提出書類等、分からないことがあれば行政担当課に尋ねており、運営推進会議内でも行政の動向等最新の情報を把握している。また、担当課職員が定期的に入居者との面会に訪れている。行政から案内のある研修には可能な限り参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則していない。適時、ミーティング等で話し合い、拘束はしないケアを実践している。	指針を整備し、2ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開いており、事業所全体で拘束をしないケアに取り組んでいる。パーソンセンタードケア等の研修を行っており、職員は入居者が安心できる言葉掛けを行っている。気になる場面が見られたら、朝のミーティング時に注意喚起したり、他の職員が間に入っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	その日、その日で入居者の様子も変わってくるので、心理状態も学び話し合い、言葉遣い、対応をお互い学びながら、行いが虐待にならないよう注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容、利用料など、資料をもとに十分な説明を行い、不安や疑問について相談しやすい雰囲気をつくる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス利用開始時や毎月定期的に日常の様子、受診など、書面や電話で報告し、運営に反映させている。	事業所は、入居者や家族が要望を伝えやすいよう、話しやすい雰囲気を作るとともに。契約時に意見要望の窓口体制について説明している。毎月、手紙で利用者の様子や面会状況、健康管理等を伝え、家族の訪問時や電話で、家族の思いを把握している。日中の過ごし方や支援方法の見直しなどに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、スタッフの意見、提案は聞いている。シフトの意向確認、物品購入等スタッフの意見を反映させている。	職員は朝のミーティングや日中の業務の中で意見を出し合い、連絡ノートに記して共有している。代表者や管理者は、経営者会議で管理者が伝える職員の意見を把握し、事業所の運営に活かしている。勤務シフトや休暇は職員の意向を踏まえて調整し、意見をもとに物品の購入を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々にあった勤務体制を組み、その日その日の入居者様の状態にあった勤務体制で働きやすい、やりがいのある、意見や提案が出しやすい職場作り。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議、研修には、全スタッフが参加しやすいよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人本部との連携		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身の状態や本人の思いに向き合い、今までの生活背景を創造しつつ本人の安心感につながる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者や家族の思いなど初期段階であぶり出し、状況を見極め、耳を傾け支援する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の困りごと、不安な事、要望などに対して信頼関係づくりに努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性、性格、その日の状態にあった対応を心掛ける。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にして、スタッフも思い共有し、共に本人を支えていくよう取り組む。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人台帳に纏め、スタッフ一同情報共有できるようにしている。	管理者は、ケアマネージャーが把握した本人・家族の情報を基に入居者台帳を作成している。家族や知人の面会、外出は自由である。病院受診時の待合室では、顔見知りにも会うこともあり、馴染みの人や地域との関係が途切れないよう支援している。自宅近くへのドライブ、行きつけの美容室など、馴染みの場所への支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないよう出来るだけ一緒に過ごして、利用者同士が喜びあえるよう支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会が出来ない時は、事務所で現状や体調を伺う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の希望、意向を聞き取りコミュニケーションなどを通して把握している。	職員は入居者に寄り添い、思いや気持ちを、会話やさりげない声掛け、表情や仕草から汲み取っている。得た情報は介護勤務日誌などに記録し共有している。発語を引き出せるよう単語で答えやすい問いかけを行い、担当者を1年ごとに交代することで全員で入居者を把握し、本人に合わせた支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人のアセスメントを取ることでその方にあつたサービスの提供に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、健康チェックを行い、状態の把握につとめる。又、スタッフ間で共有する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護度、認知症状に添った長期、短期の介護計画を作成し、本人、家族の要望も聞き取り、現状にあつた計画を作成。	長期12ヶ月短期6ヶ月の目標を立て、介護計画を作成している。6ヶ月毎に職員全員でモニタリングを行い、生活状況をもとに見直しており、本人・家族の思いを聞き取り、ケアマネージャーが作成している。本人が楽しく過ごし、力を発揮できるよう目標を立てており、本人の同意の署名と家族の了承を得て、計画を実行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排せつ、睡眠、性格の様子を介護記録や業務日誌に記録し、計画の見直しに反映させる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各個人、家族のニーズに対応出来るよう柔軟な姿勢で取り組む。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	よりよく安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師の協力により、定期的に通院している。結果は受診ノートに記載。	協力医療機関である上対馬病院は今年8月から訪問診療が可能となり、本人・家族の希望に沿い数名が利用している。通院はケアマネジャーが同行しており、受診ノートと服薬ノートで受診内容を共有している。夜間緊急時の対応を職員は理解しており、普段と様子が違う場合等、早めの対応を心掛けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内で症状の把握が困難な場合、協力病院に受診。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ケアパスの提供により、スムーズな治療ができるよう関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取り」は行わない方針を説明し、理解を得る。	体制が整っていないため看取りは行わない旨を契約時に家族へ説明し、同意を得ている。事業所は、重度化に対する意向確認書にて本人・家族の意向を把握しており、口から食事が取れなくなる等、状態に変化が見られたら主治医を交え説明を行っている。本人・家族が安心できるよう、事業所はできる限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成。事故発生時にはすぐに対応できる体制。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害時は住民センターまで避難。火災等未然に防ぐ対策として、毎月避難訓練を実施。	毎月消防に関する自主訓練を実施しており、消火訓練や避難誘導等行い、動きを確認している。年2回消防署立会いの下、昼間・夜間想定での消防訓練を行っており、アドバイスを得ている。また、有事の際は法人他施設との協力体制はある。ただし、BCPは作成しているものの、それに基づく研修や訓練実施はこれからである。	BCPに沿った訓練を実施することで、現状に合った対策への見直しに繋がると思われる。研修と訓練の実施に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した支援に取り組んでいる。個人情報に関する書類は事務所内の鍵つき庫で保管。	職員は、居室に入る際はノックし、入室後はドアを閉める等、本人のプライバシーを尊重した支援に努めている。羞恥心を傷つけない関わりを意識し、パッド類の管理にも注意を払い、本人本位の視点を大切にしながら尊厳を守る日常支援に取り組んでいる。個人情報はキャビネットで管理し、職員の守秘義務を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思表示や気持ちを汲み取ることでできる事、出来ない事。好きな事、嫌いな事などを配慮し、自己決定を促す。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、スタッフの都合に合わせる事なく、ご本人の希望に沿った取り組みが出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の望む衣類、化粧品を使用するなどその人らしさを輝かせるように。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬に合わせた献立や嗜好に合わせた食事の提供。	本部栄養士と相談しながら、利用者の嗜好に合わせた食べ慣れたメニューを3食手作りしている。好き嫌いやアレルギーには代替食で対応し、自身のペースで食べやすいよう盛付けている。食材の下準備や台ふきなど利用者が手伝う場面もある。季節行事や誕生会の特別メニューなど、毎日楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、食べる量、水分量の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心掛け、移動に問題のある方はPTイレを使用。	職員は排泄チェック表を用い、チームで同じ介助が行えるよう話し合いを重ねている。全員で見守りを行い、パッド交換時の声かけや対応を統一している。使用済みパッド入れを工夫し、本人が自分でできる場면을支援している。利用者の体調の変化に応じて、支援内容を随時見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力、下剤の使用を控え、食物繊維やオリゴ糖など飲食の工夫。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の心情や体調を考慮し、週2回の入浴を実施。	週2回入浴日は、職員3人体制で脱衣から入浴まで支援しており、シャワー、足浴、浴槽に浸かるなど、入浴方法を本人が選択している。入浴日以外は清拭を行い、失禁時などは随時シャワーで対応している。個人のシャンプー類の持込に対応し、入浴剤や季節の湯を活用して、入浴が楽しい時間となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人に合わせた生活習慣に重きを置き安眠、休息支援に重点を置く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が解りやすいように処方箋をまとめ副作用など確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の見守りの中、自由、気ままに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や天候に応じて、季節に合わせたドライブ、祭りなどの参加。	事業所周辺の散歩や庭での外気浴を取り入れている他、紅葉や桜を鑑賞するなど季節を感じられる外出など入居者が戸外に出ることを支援している。買い物や自宅周辺への外出は、家族の協力を得ている。おやつ時間を庭で楽しんだり、洗濯物を干したり、日常活動の中で外へ出るよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で全て管理。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的な交流は電話、面会等で対応。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも清潔でアットホームな生活ができるよう環境整備、その都度工夫している。	日当たりの良いリビングでは、入居者がソファで寛いだり、談笑したり、皆で歌や踊りを楽しむ姿があり、明るく賑やかな生活の様子が窺える。テーブルの花や玄関の装飾から季節を感じることができ、キッチンの調理風景や匂いは家庭的な雰囲気醸し出している。職員が毎日の清掃と環境を整備しており居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気軽に生活できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの者を持参してもらい、本人が居心地の良い環境作りを目指している。	備え付けのクローゼットを活用し、居室内の整理整頓が行き届いている。持ち込み品に制限はなく、家族の写真や使い慣れた家具等飾っている。各居室の入口には本人の居室と分かるよう表示の工夫があり、乾燥防止のため濡れタオルを掛ける等、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全な生活ができるように創意工夫している。		